

MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

# MCN REPORT

## 知的財産の取組 本学2例目の特許権を取得

Vol.50  
2022.3



部分浴用容器(1ページ)



初動対応訓練(5ページ)

### 主な内容

知的財産の取組(特許権の取得) .....	1
教員インタビュー(男性看護師について) .....	2
大学の出来事 .....	3・4
初動対応訓練の実施 .....	5
連携協力協定病院紹介(三重県立総合医療センター) .....	6



三重県立看護大学  
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



大学マスコット  
キャラクター  
「みかんちゃん」



# 知的財産の取組を紹介します

本学は、地域の保健・医療・福祉のさらなる向上をめざし、行政や医療機関、企業など多様な主体と連携しながら、臨床現場のさまざまなニーズに応じた研究開発を行うことを中期計画に定め、看工連携を推進しています。

本学として、研究活動の成果を社会・地域へ還元し、臨床現場における知的財産の発掘に励んでいます。

## 「部分浴用容器」本学として2例目の特許権を取得

現場の看護職者の困り事を解決するために研究開発した「四肢洗浄用容器」は、平成31年2月に特許出願し、令和3年12月に「部分浴用容器」として、本学2例目の特許権取得となりました。（発明者：齋藤 真・長谷川 智之）



## 発明者の一人である齋藤 真教授に特許取得についてお話を聞きました。

### Q1 「部分浴用容器」を研究開発するに至った経緯を教えてください。

看護や介護の現場で、自力で入浴やシャワーを浴びることができない患者に対し清拭が行われていますが、手や足は清拭では除去できない汚れが残ってしまいます。特に四肢が拘縮した患者の場合は、悪臭の発生のみならず細菌やウイルスの増殖といった問題が残ります。

ベッド上で仰向けのまま手や足の部分浴が簡便にできたらという現場からの要望で研究開発に至りました。しなやかにたわみ合成樹脂製のシート材にすることや形状を工夫することで、拘縮等の症状が進行した患者と看護職者の双方の負担を軽減可能なことと洗浄効果の向上も確認されました。

### Q2 「部分浴用容器」は他にも利点がありますか。

清潔を保つ以外に、血行促進やリラックス効果が得られます。

### Q3 最後に、今後の目標を教えてください。

現在、「部分浴用容器」は地元企業と連携し、製造工程やコスト計算の検討などが終わったところです。次に販路開拓に向けて企業と連携できるよう、公的機関にアドバイスを求めながら積極的に活動しております。お陰様で、流通、販売に関して具体的なお話をいただいている企業もあります。

ケアに従事する方々、少しでもご関心ございましたら、お気軽に本学へお問い合わせください。

### 《特許：1例目の紹介》 「心肺蘇生用足趾支持台」 (特許 第6634969号)

ベッド上の患者に心肺蘇生術を行う際に、術者の安定した足場を確保し、適確な心肺蘇生を行えるようにする台座

発明者：齋藤 真・長谷川 智之

出願日：平成28年6月23日

登録日：令和元年12月27日

# 教員インタビュー(男性看護師について)

## 前田 貴彦准教授

令和3年12月、平日朝に放送されている情報番組に、本学教員の前田貴彦准教授がオンライン出演しました。その日の特集は、性差のある職業にスポットをあて、それぞれの職場で活躍している方々の声などが放送されました。

本学は現在、全学生410名のうち、男子学生は13名です。少数派の男性看護師について、全国男性看護師会代表としても活躍中の前田准教授に、放送後にインタビューしました。



### Q1 情報番組に出演し、反響はありましたか。

放映直後から、問い合わせがありました。看護師をめざす男子学生の保護者の方からの質問やtwitterを通して男性看護師を応援するメッセージを沢山いただき、嬉しい限りです。

### Q2 男性看護師の病院でのお仕事の様子も放送されましたが、本学の卒業生ですか。

残念ながら本学の学生ではありません。全国男性看護師会の会員の方です。しかし、座談会に出演していた平田君は、本学の大学院修了生で、現在臨床の場で副看護師長として活躍しています。そして、取材に協力いただいた病院は、本学の学生が実習でお世話になっている連携協力協定病院でもあります。

### Q3 全国の看護師のなかで、男性看護師は何割くらいですか。

男性看護師は年々増加しています。平成20年は、44,884名でしたが、平成30年は、95,155名と10年で倍増しています。また、看護師全体に占める男性看護師の割合も平成30年には7.8%となっています。

### Q4 学生に指導する際、男子学生に対し、気にかけている点がありますか。

学生指導において、男子学生だからといって特別気にかけていることはありません。学生みんなが平等に学ぶ機会を得られるようにすることが大切だと考えています。一方で、男子学生がもつ将来への不安や男子学生ゆえに抱える悩みに対しては、男性看護師の先輩としての立場からアドバイスをしたり、様々な領域で活躍する先輩男性看護師と交流が持てる機会をつくったりしています。

### Q5 「全国男性看護師会」の活動を教えてください。

男性看護師および看護師をめざす男子や男子看護学生を支援する活動を通して、看護を必要とするあらゆる人々に対する看護の質のさらなる向上に寄与することを目的に活動しています。具体的な活動としては、男性看護師に関することをテーマとした交流集会(女性看護職の方も参加いただいています)や看護師をめざす男子中学生・高校生を対象に「ナースマン・スクール」の開催(次回は令和4年7月に開催予定)、男子看護学生を対象としたセミナー、男性看護師に関する研究に取り組んでいます。興味のある方は、ホームページをご覧ください。検索(samurainurse.com))

### Q6 最後に、男性看護師の「これから」を教えてください。

男性看護師は年々増え、様々な場所で活躍しています。男性看護師ゆえの苦勞もありますが、男性看護師が増えることは患者さんにとって選択肢の幅が増えると考えています。また、男性看護師である前に私たちは看護師です。看護の可能性は無限大です。男性看護師と女性看護師が協力することで新たな看護が創造できると考えています。今後の看護のさらなる発展のために、男性看護師が「ちから」を発揮して欲しいと思います。



# 大学の出来事

## 三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会

12月19日(日)

本学にて「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」を開催しました。

この交流会は、特別選抜(学校推薦型選抜、地域推薦型選抜、指定校推薦型選抜、東紀州地域指定校推薦型選抜)による入学予定者40名とその保護者を対象に、大学で学ぶことや看護職者としての将来像をイメージし、入学後に円滑な学修につなげることを目的として実施しています。

三重の保健医療の現状や入学までの過ごし方についての本学教員による説明のあと、県内の医療機関や行政機関で活躍する看護師・保健師・助産師からお話がありました。お話をくださった3名は本学の卒業生であり、参加者の皆さんは、将来の自分の姿に重ね合わせるかのように、真剣な眼差しで聴きっていました。

また、当日は、県内17医療機関の方々にもお越しいただき、個別相談が行われました。個別相談では、保護者の方と一緒に医療機関ブースを回り、病院ごとの特徴や新人教育体制などについて熱心に質問していました。

終了後のアンケートでは、「看護職者や病院の方と直接話すことで、自分の将来について考えることができて良かった」等の意見がありました。



## 令和3年度卒業研究発表会

12月24日(金)

本学4年生99名による令和3年度卒業研究発表会を開催しました。卒業研究は、教員の指導の下、学生自らがテーマに沿って研究計画を立案し、データを集めてまとめ上げる、いわば本学での学びの集大成です。

今年度は7つの会場に分かれ、集まった同級生や教員、来年度卒業研究を履修する3年生の聴講者を前に、自己の研究成果を発表しました。

本学で4年をかけて培った学びと研究は、それぞれの現場で「実践」へとつながっていきます。



## 令和3年度後期修士論文発表会

1月19日(水)

令和3年度後期大学院看護学研究科修士論文発表会を開催しました。

研究成果の発表は、学位授与のための審査過程の一部になります。修士論文コース7名、専門看護師(CNS)コース5名の計12名の院生は、緊張した面持ちで、それぞれの教育研究分野における研究成果を発表し、質疑応答に臨みました。

修士論文審査と研究科委員会での審議を経て、学位取得となります。学位取得後は、高度な専門知識と実践能力を備えた専門的職業人として、看護学の探求と発展に寄与することが期待されます。





## みんなが集めた炬火が野口みずきさんによって一つに。 「全国に届け！三重のこころ」



(令和4年3月末まで公開)

新型コロナウイルスの感染拡大により、令和3年に予定されていた三重とこわか国体・三重とこわか大会は、残念ながら中止となりました。

両大会実行委員会では、式典出演予定者や準備にご協力いただいた県民の皆さん、そして選手の皆さんにエールを送るため、特別映像「選手に届け“とこわか力”」を制作し、令和3年12月から実行委員会ホームページで公開しています。

本映像の第2話「炬火・歓迎」では、本学が撮影地の一つに選ばれ、県内各市町から集められた炬火の種火が、アテネオリンピック金メダリストの野口みずきさんの軽快な走りとともに「とこわか火」として一つに燃え上がります。本県に集う予定であった47都道府県、それぞれの地元からの応援メッセージ、三重の子どもたちからの歓迎メッセージをまとめた感動の第2話です。公開は、令和4年3月31日(木)までの予定です。皆さんぜひご覧ください。



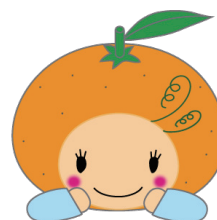
## 公衆衛生看護学実習 健康教育発表会

2月9日(水)

公衆衛生看護学実習の一環として、本学3年生の健康教育発表会を開催しました。本来であれば、実習先の住民の方々に向けて行うものですが、新型コロナウイルスの感染拡大により学内での発表会となりました。

実習場所のグループ毎に、その地域の健康課題からテーマを決め、クイズや体操などを取り入れた参加型にするなど、想定した対象者に合わせた工夫がなされていました。

学内での開催となったことにより、他のグループの学生と学びを共有することができ、また、学長をはじめとする教職員の参加および助言を得ることができました。



# そのときどう動く？ 防災意識を高めよう！

## 初動対応訓練の実施



1月24日(月)12時に南海トラフを震源として、津市で大規模地震が発生した想定で、防災訓練を実施しました。

新型コロナウイルスの感染防止のため、講義等をオンラインにより実施していることから、学生は訓練に参加することができず、教職員のみの訓練となりました。

当日は、地震発生時の安全行動や避難行動、各教職員の役割等を確認し、災害対策本部での安否確認や大学施設の被害状況などの情報収集を行う初動対応訓練を行いました。

さらに、災害による停電を想定し、非常用電源から電力が供給されない施設へ電力供給を行うため、移動式発電機の操作訓練を行いました。

今回は学生が参加できませんでしたが、災害時には、迅速に適切な対応が取れるよう、今後も大学全体で取り組んでいきます。



## 地域交流センター 令和3年度 第3回公開講座

### ～こころの健康と運動～ 『楽しむ』原点から学んだ指導



1月8日(土)に、井村久美子先生(イムラアスリートアカデミー コーチ、北京オリンピック走幅跳日本代表)をお迎えし、『楽しむ』原点から学んだ指導」をテーマに公開講座を開催しました。

講演では、先生のアスリート、指導者としての実体験をもとに、教育の場面だけでなく、自己実現や他者とかかわりのヒントとなる多くの取組をご紹介いただきました。

参加者からは、「スポーツを通じて子どもとの接し方について学びました」「指導者として相手の人生をサポートすることの重要性を大変わかりやすい言葉で伝えていただきました」などの感想があり、好評でした。

当日は、新型コロナウイルスの感染防止対策として、検温・手指消毒、会場内の換気と人数制限を実施し、会場に109名、オンライン95名(卒業生24名、学生・教職員71名)、合計204名の皆様にご参加いただきました。たくさんのご参加をありがとうございました。



三重県立看護大学 地域交流センターでは、どなたでもご参加いただける公開講座を令和4年度も開催する予定です。(6月・10月・1月頃)テーマ、講師、申込期間等の詳細が決定了したら、本学ホームページ等で発表いたします。次回も、どうぞご期待ください。

**問い合わせ先** 三重県立看護大学 地域交流センター TEL/FAX 059-233-5610



# 連携協力協定病院紹介

## 連携協力協定病院のご紹介 ～地方独立行政法人 三重県立総合医療センター～

### いのちに寄り添い、こころを支える看護の実践と、共に学び成長できる職場環境を目指して

当院は三重県の北勢地域に位置する、救命救急センターを併設する急性期総合病院であり、高度医療の実践、地域医療を支援する病院として、医療の提供をおこなっています。小児・周産期医療の推進や、大規模災害の発生時等、非常時の県のセーフティネットなど、公的病院としての役割を担っております。多様な役割を持つ当院だからこそ学べる機会がたくさんあります。

急性期病院という展開の速い職場ですが、「気づき・対話・協働・笑顔」を理念に据え、患者さんの思いを感じ、察することを大切に考え、小さな気づきをみんなで育て、協力し合って「看護を通してみんな笑顔になってゆく」そんな看護部づくりをめざしています。

看護職員育成には、キャリアラダー制度を運用し、新人から段階的・継続的に学べる環境を整えています。看護職としての基盤を作り、将来に向けてキャリアを伸ばしていくことができます。また、職場環境の整備については、ワーク・ライフ・バランスの推進、変則二交代勤務、ペアナーシングの実践など、スタッフの声を大切にし、形にすることで働きやすい職場づくりを実現してきました。制度も整備されており長く働き続けることができる病院です。

また、当院は、臨地実習のフィールドとしてもご活用いただいております。充実した臨地実習を行っていただけるよう、指導者の育成にも努めております。実習等で病院にお越しになられた際には、気軽にお声かけください。また、ホームページにも看護部の活動などを紹介しておりますのでご覧いただけましたら幸いです。

(副院長兼看護部長 川島いづみ)



地方独立行政法人 三重県立総合医療センター



#### 病院情報

地方独立行政法人 三重県立総合医療センター（平成6年10月開設）

- ❖ 病床数：一般病床389床、感染症病床4床、救命救急センター30床
- ❖ 診療科目：総合内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、一般外科、消化器外科、小児外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、小児科、形成外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、精神科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、救急科(26科)
- ❖ 職員数：861人(うち看護師・助産師531人)(令和3年10月1日現在)

### 連携協力協定機関一覧

#### 12病院・2市

● 三重県厚生農業協同組合連合会  
鈴鹿中央総合病院

● 社会医療法人畿内会 岡波総合病院

● 伊賀市立上野総合市民病院

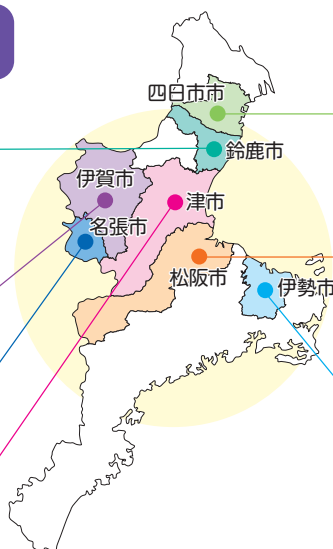
● 名張市

● 三重県立こころの医療センター

● 独立行政法人国立病院機構 三重病院

● 三重県立一志病院

● 津市



● 地方独立行政法人  
三重県立総合医療センター

● 松阪市民病院

● 社会福祉法人恩賜財団  
済生会松阪総合病院

● 三重県厚生農業協同組合連合会  
松阪中央総合病院

● 日本赤十字社 伊勢赤十字病院

● 市立伊勢総合病院

(令和4年2月末日現在)

## さらなる発展と人材育成の充実に向けて

### ～学生の修学支援のための基金への寄附のお願い～

本学では、開学20周年(平成29年)を契機として学生の修学支援に活用するため、皆さまからの寄附を原資とする「**公立大学法人三重県立看護大学修学支援基金**」を創設しました。

この基金は「**みかん大進学支援給付金**」の財源として、三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、本学への進学の目的及び意志が明確であるにもかかわらず、経済的理由により進学が困難な人への入学時の給付金に活用しています。

新型コロナウイルス感染症により、令和2年度には、「**生活支援給付金**」や「**緊急支援一時貸付金**」に活用するとともに、今年度は、実習等で必要な「**PCR検査費用の支援**」を行っています。

#### ■皆さまへのお願い■

基金創設時には多くの皆さまからご厚志を賜りましたが、継続的かつ機動的に、安定した学生への支援を可能とするため、引き続き、皆さまからご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

#### ■寄附にあたってのお得なお知らせ■

本寄附金は、総務大臣及び文部科学大臣の承認を得て、所得税の税額控除の対象となっています。詳細は事務局にお問い合わせください。(対象:平成31年1月～令和5年12月寄附分)

#### ■令和4年2月末の基金の状況■

基金残高 3,574,310円

寄附者数(のべ) 個人 93名

法人・組織 15団体

**問い合わせ先** 寄附に関すること:事務局財務・運営課 給付金に関すること:事務局教務学生課



公立大学法人  
**三重県立看護大学**

〒514-0116

三重県津市夢が丘一丁目1番地1

TEL 059-233-5600(代)

FAX 059-233-5666

<http://www.mcn.ac.jp/>



#### 本学マスコットキャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大(みかんだい)」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



#### 学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



#### 「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。

広告



財)日本医療機能評価機構認定病院  
地域医療支援病院



女性が働きやすい  
医療機関  
(三重県認証)



社会医療法人 畿内会

**岡波総合病院**

Okanami General Hospital

急性期から高齢者介護や在宅にいたるまで  
まごころのこもったサービスの提供に取り組んでいます



〒518-0842 三重県伊賀市上野桑町1734番地 TEL:0595-21-3135